

公衆衛生学	2年・前期	1単位	教授 世喜 利彦
科目カテゴリー	看護の対象の理解	科目ナンバリング	32310412

1. 授業のねらい・概要

日本では少子高齢化が進み、世界全体では食糧や環境問題が深刻化している。これらが私たちの健康や生活に大きな影響を与えていることは、良く知られている。この事態に対処するには社会を担う一人ひとりが取り組むことが必要である。看護師として臨床で患者をより深く理解し、より良い生活を過ごすことをサポートするためには、人と社会との接点を知ることが重要である。本講座では公衆衛生の基本的な知識、考え方、その役割、重要性を学び理解することを目的とする。

2. 学修の到達目標

1. 公衆衛生の概念、予防医学を理解する。
2. 日本及び世界の人口動向について理解する。
3. 人の一生である、妊娠、出産、胎児、新生児、乳幼児、青少年、成人、老年の各期の各保険と死の問題について知り理解する。
4. 人の健康の維持増進、疾病予防を実践するために関わる環境因子を把握する。
5. 地域の医療・保健・福祉に取り組む行政のしくみと制度、さらに国際保健について学ぶ。

3. 授業の進め方

基本的には教科書を中心にして講義を進める。必要に応じて参考資料のプリントを配布する。

4. 授業計画（講義）

1. 公衆衛生とは何か？（健康の科学、人口の動向）	5. 心の健康、心身障害と環境衛生
2. 妊娠・出産、胎児期・新生児・乳幼児期の保健	6. 環境汚染、公害と感染症：微生物による病気
3. 青少年期、成人期の保健	7. 食物と健康、職業生活と保健
4. 成人期、老年期の保健、及び死の問題	8. 保険・医療の行政、まとめ

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上のコマ数出席者）100%を判断基準にして評価する。

6. テキスト・参考文献

教科書：学生のための現代公衆衛生[第7版] 野中浩一 編 南山堂 2020

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

最低1時間の予習の中であらかじめ、授業前に必ず一度は予定範囲を読んでおくこと。復習(1時間以上)は、その日のうちに行う。

8. 受講上の留意事項

遠隔授業：オンデマンド型の場合は、1コマ(2回に分けた分)をそれぞれ最後まで視聴すること。
また不明な点、理解できない点があれば、遠慮せず、質問すること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

当該授業科目の重要課題について作成したものを、最終授業の数週間前に配布する。試験直後に、正解および、そのねらいについては説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合、進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

該当する。本授業は、研究機関における研究員としての勤務経験を活かして、講義を行う。